

旭川での学びを生かし、カンボジアの稲作開発へ

～大雪土地改良区職員が JICA 研修員のその後を視察～

国際協力機構 北海道センター（JICA 北海道（札幌））では、大雪土地改良区の協力を得て、これまで多くの途上国から農業技術者を北海道に招き技術研修を行ってきました。北海道、特に旭川においては、明治になってからの移住者により稲作開発が進められ、土功組合の設立なども含め、本州には見られない短期間での開発と組織化の歴史があります。大雪土地改良区がもつこうした歴史や経験は、現在、急ピッチで国づくりを進めてる多くの途上国にも大変参考になっています。

近年はコロナ禍の広がりのため、2年間にわたり北海道での研修を中断していましたが、2022年に北海道での研修を再開し、7月25日から8月9日にわたり、7人のカンボジア人研修員を旭川に招き、短期集中で流域水資源利用の研修を行いました。

彼ら研修員は、大雪土地改良区での研修最終日に行動計画を発表しました。これは、旭川滞在中に得た学びをもとに、カンボジアへ帰国後、身に着けた知識や知見を活かし、日々の業務にどのように取り組んで行くのかをまとめたものです。

日本での研修から約半年が経過し、その後の彼らがどのように業務を進めているのか、研修の成果を確認し、また、現場でさらに必要なアドバイスを行うため、2023年1月15日から1月28日まで大雪土地改良区の技術者の方4名がJICAの調査団としてカンボジアを訪問しました。

また、滞在中、日本での研修に参加した技術者のみならず、広くカンボジア政府機関職員を招き、日本での経験・知見を共有するためシンポジウムを開催しました。

カンボジアとの外交関係樹立70周年となる節目の年である2023年も、第二回目のカンボジア技術者の旭川での研修が予定されています。今回の訪問を通じ、カンボジア関係者からのヒアリングを踏まえ、より効果的な研修になるよう、JICAは大雪土地改良区の皆さんとともに技術協力を進めてまいります。



農家から聞き取りをする土地改良区職員



シンポジウムで発表する土地改良区職員

今後も大雪土地改良区の国際協力活動に注目いただき、取材をご検討ください。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA北海道(札幌) 研修業務課 松本

TEL080-7196-8396 e-mail : Matsumoto.Kenichi@jica.go.jp